

第6回磁場核融合ネットワーク委員会会合メモ(案)

日時：1997年6月19日 13:30～

場所：核融合科学研究所研究棟4階小会議室

出席者：玉野、伊藤、花田、井上、山中、三間、小川、大引、
河合、藤原、山崎、庄司(書記)

1) 会議概要(玉野)

- ・学審とネットワークとの関連について
- ・LHD計画共同研究について
- ・ネットワークアンケート集の活用について
- ・日米共同計画について

学審関連報告 井上

- ・炉工学
- ・人材育成

核融合研究の波及効果を強調すると、本業が疎かであるとの疑問をもたれる可能性がある。
他の分野から核融合研究がどう見られているか強く意識するべきである。

新大型計画以外の計画、炉工学

予算等をしばれという圧力がかかる可能性がある。井上

核融合研究が総花的と言う印象をあたえるようではこまる。藤原

今後、材料研究をやるのであれば本格的に行うべきであるという意見がある。井上
ネットワークは互助組合ではないかという意見もある。

受託研究について 井上

LHDでは不可能な研究の位置付け。十年前との相違は？

NIFSはポストとしての働きを強調しなければならない。

外部から見た場合、大学では十年来同じ研究スタイルである。なぜか？

何のためのNIFSであるか？藤原

ネットワークをうまく活用したリーダーシップが期待されている。藤原

学術としてのネットワークの活用を希望する。十年の間変化がないかの様に思われている。
うまい方法はないものか？ 井上

学術と言って、研究の幅を広げていくのはごまかしである。現在、研究はどこまで進展しているのかが重要である。藤原

大学の研究は目的指向と割り切るのが良いか？井上

核融合のイメージ、役割分担、ネットワークとのからみは？藤原

核融合研究は全体が重要、それぞれをサポートし合うべきである。井上
ここ十年の研究の動向を記す必要がある。山崎

十年間の人材育成 技官

新しい研究方向を記すべきである。炉工学関係の研究の記述、LHDを全国で共同で実行していく。

具体的な例は出さずに、一般論をいった方が良い。井上

2) LHD計画共同研究

- ・平成8年度で始めたものの挫折は回避したい。
- ・今年度中に議論して、来年度に評価していく。
- ・NIFSシンポジウム

これらは運営協議会で了承済みである。

今後の概略、今後は新規のものも入れられる形態としたい。人の異動等についても...

3) ネットワークアンケートの回収結果

自己申告(関連課題について)のしきい値の問題

今回は、申告通り受け入れることにする。

4) 慣性核融合

慣性核融合を推進するためにネットワークで何を行っていくか?

NIFSは慣性核融合も含めた中心的な位置づけとしたい。

原子力研究所との関連はどのようにするか? 伊藤

ネットワークの規約はどのようになっているのか?

・NIFSがネットワークの事務を司るのか? 受け皿はNIFS側で要求するようになりたい。

5) 日米共同研究

ジュピター計画が平成11年度で終了する予定である。

この種の研究を継続したいと考えている。材料の中性子照射。これ以上の計画案があるのか?

これについてはネットワークベースで計画したい。(2億円/年)

ジュピター計画の次の計画を炉心関係から案を出したい。

ネットワークから案を出すことは良いことである。

逆磁場ピンチをネットワークの議題にできる可能性がある。

次回の会合までに案を考慮すべきである。

6) 今後の予定

次回のネットワークの会合を秋期に行う。案の検討等については電子メールで連絡する。